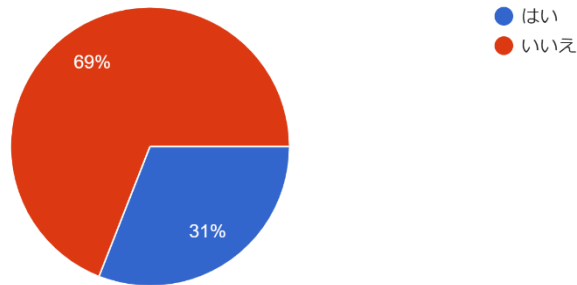


看護未来塾第16回勉強会 アンケート結果

2022.9.11 報告

Q1 看護未来塾の塾員ですか

42件の回答



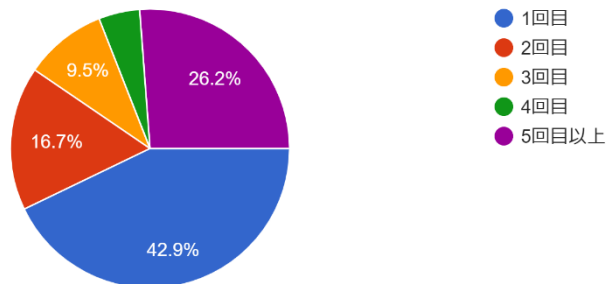
Q2 今回の勉強会が開催されることをどのように知りましたか

42件の回答

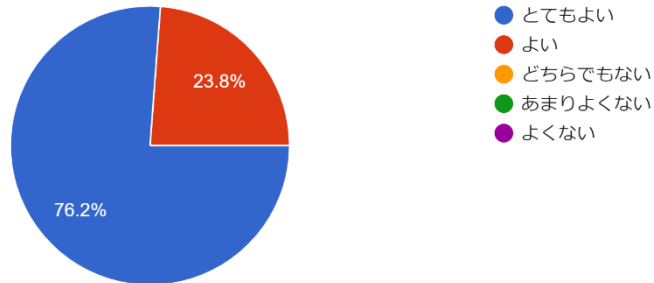


Q3 看護未来塾勉強会への参加は何回目でしょうか

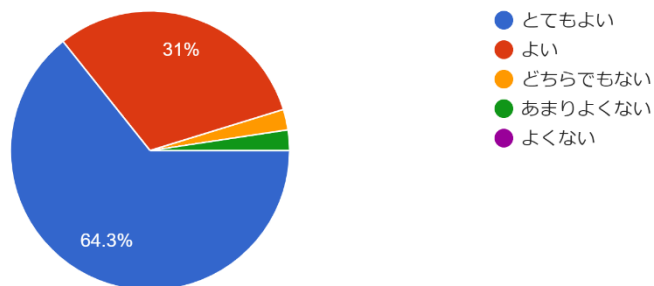
42件の回答



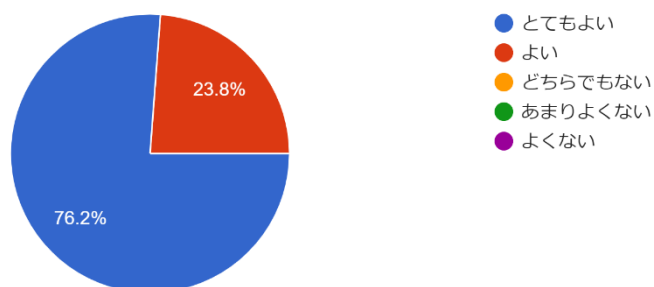
Q4 第16回勉強会の趣旨についてあてはまるものを選択してください
42件の回答



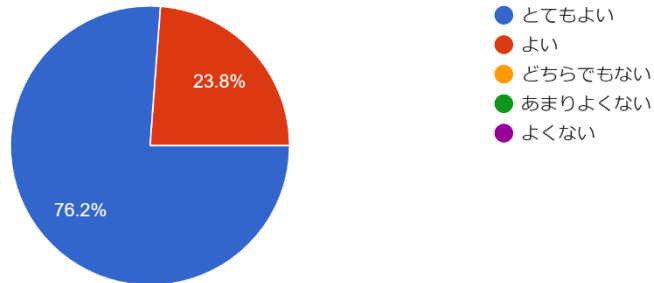
Q5 話題提供① ケアの再発見:急性期看護からロングタームケアを経験して
42件の回答



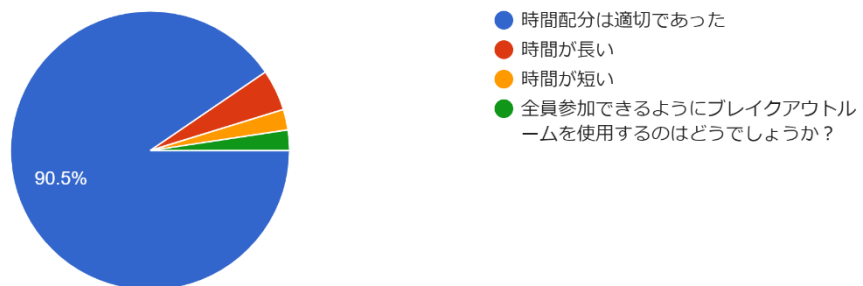
Q6 話題提供② 『極力手を出さない』という高...
42件の回答



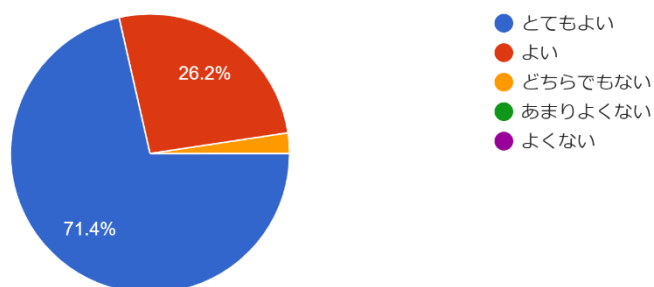
Q7 話題提供③ ケアの新しい社会的価値を拓く手がかりを求めて
42件の回答



Q8 全体討論会の時間配分について当てはまるものを選択してください
42件の回答

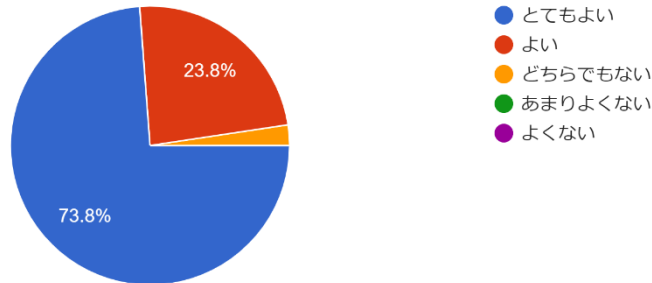


Q9 全体討論会の内容について当てはまるものを選択してください
42件の回答



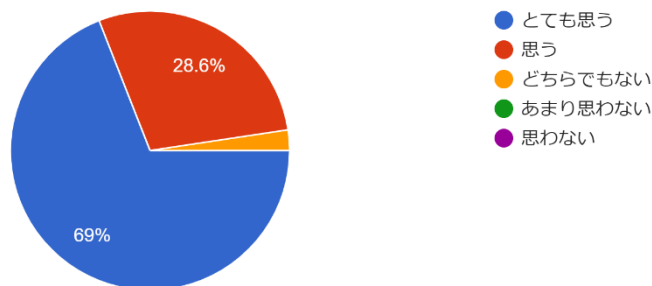
Q10 リモート勉強会の開催方法について当てはまるものを選択してください

42 件の回答



Q11 また、看護未来塾に参加したいと思いませんか

42 件の回答



Q12 今回の勉強会に関して、感想・ご意見などございますか

31 件の回答

- 今回看護学生として参加致しました。学生である私に対しても、対等に意見を述べる機会と雰囲気を作ってくださいありがとうございました。終始楽しく参加させていただきました。
今、「ケア」について考える意義があると強く思わされました。印象に残っている言葉が「看護の社会的価値」です。所謂「療養上の世話」や自分が行いたい温かみにある看護が現場では行い難い現状があるのだと思います。まず、最初の話提供では支援の在り方について拝聴し、看護では、患者さんが自分で行うための環境整備が必要なのだと思いました。これは2つの段階があり、1つ目は、予防段階(例えば転倒リスクに繋がる障害物を排除する等)、そして2つめは実行の段階。この実行の段階で誤解されていることが多いのだと気づきました。私も介護パートとして特養で働いていて、実行の段階で可能性を狭めてしまった関わりになっていることが多々あるように思いました。自分がこれまでケアだと思っていたものを、「一度立ち止まって考える」このプロセスが今求められているのだと感じました。しかし人間なので、今日の気づきが薄れていくと思います。今後の課題としては、この立ち止まって考える。ということ自分を、延いては組織のルーティンにしていくことが大切なのかと思いました。
終盤に川嶋先生がおっしゃっていた「生活のこまごましたことに気づくこと」について、看護学実習で個人差を非常に感じました。その気づきが少ないことが悪いという話ではなく、この気づきの差を生み出しているのは何なのかということが私の疑問です。看護の価値を見出すためにも、色々な人の生活を知る、患者さ

んを生活者として捉える必要性があり、だからこそ大学の看護教育では、より地域看護に重点が置かれたカリキュラムになっているのかなと思いました。しかし、私はこれに加えて「心から相手に関心をもって関わること」が重要なのだと思います。学生にとって、実習は苦痛と捉えられ、ネガティブなものとして認識されてる傾向が強いです。苦痛な実習が流れるようにすぎる中で学びに、心からの関心は生まれにくいのだと思います。タイミングは必ずしも実習でなくとも、相手のことを知りたい！という気持ちがケアに繋がる一歩目であるのだと学びました。しかしこの思考の危険性として、本日の話題提供のお話にもあった「過剰な介入はケアではなく、自立の障害である」ということをよく理解した上で、行動を改めないといけないのだと思いました。

ケアは実践して初めて意味を成すので、今回の学びを実践に必ず活かそうと思います。非常に熱く、有意義な時間でした。ありがとうございました。

- 看護未来塾の勉強会に参加し「療養上の世話」と「診療の補助」のお話を伺って以来、考えておりますが、やはり、「診療の補助」は「療養上の世話」のごくごく一部分であり、並列で表現されていることに問題があると思います。
そこを修正していくか、もしくは新たな表現に変更していく必要があると思います。
- 私は認知症看護認定看護師の研修生です。研修生となり日々、ケアとは何か？と自分自身に問いかけている毎日です。患者は1人1人に違った価値観があり、生きてきた歴史があり、それらを守りながら療養することをサポートするというのがケアなのかな、と最近考えています。治療・命が優先されるのは当たり前ではなく、その人にとっては命よりも大切な物があるかもしれません。患者を1人の人として当たり前大切にケアを頑張っていきたいです。貴重なお話をありがとうございました。
- 「不必要な医療はしない」が本当にその人の本心であればよいのですが、それが医療者の価値観で、ご本人とのずれが生じている場合もあるのではないかと思うと、「不必要なことはしない」ことが正しいと思ってしまうことも危険だと感じました。ご本人がどう思っておられるのかをとらえる対話を日ごろから、ご本人、ご家族、その人にとっての大切な方々と重ねることができる力や環境が重要だとおためて感じました。ありがとうございました。
- 大学(老人看護学)で教員をしながら、老人看護 CNSとして介護医療院でのフィールドワークを重ねています。元々は、急性期病院の看護師であったため、特養などの施設での高齢者へのケアについて学びたいという思いから参加しました。介護医療院も高齢者にとっては終の棲家となる生活の場であり、高齢者の生活を整える支援が重要であることを再認識しました。そして、ケアの中でも生活を整える支援は高度実践であり、一生をかけてその技を身につけられるよう磨いていかねばならないのだと、改めて気づかされました。中島先生の「生活上の全体像を捉えられる専門職はない」というお話にハッとさせられました。自身が謙虚になり、全体を捉えきれないことはいないと自覚しつつ、それでも目の前のあなたを知りたいんだ！と高齢者に向き合う姿勢が重要で、そこから、生活を整えるケアが始まることも実感しました。フィールドで実践しつつ、教員としてそのケアの重要性を学生達に伝えていけるよう、頑張っていこうと元気をいただいた勉強会でした。本当に、ありがとうございました。
- 貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。またチャットにて大変拙い文章を入力したにも関わらず、発言の機会を与えていただき感謝いたします。
日頃見える世界の中だけで、自分の看護を見るだけではなく、もっとさまざまな視点や見識をお持ちの諸先輩、そして学生さんも含め看護に向き合う皆様のお話を聞く機会を持つことは、自分を成長させる大切な機会だと考えております。見えない景色に触れることから、新たな気づきがあることを、今回の未来塾勉強会からも感じる事ができました。ケアという二文字は本当に奥深く考えると難しい。でも、ある意味当たり前困っている人に手を差し伸べる「自然」な行動でもあるように思います。これからも考えていきたいと思えます。
また次回ぜひ参加したいと思えます。ありがとうございました。
- 施設から病院に異動になりました。病院では自立支援を行うことが難しいと感じています。講演会参加することで、きっかけや考え方があるのではないかと思い参加しました。自分から発信できるように頑張っていきたいと思えました。ありがとうございました。
- 貴重なお話をありがとうございます。私は認知症看護については特に看護の力の見せ所だと考えています。個々の実践力向上はもちろんですが、さらに質の高い看護を提供できる環境を整えば、もっと患者さん

<p>一人一人に合わせたその人のための看護ができるのかなとも思います。看護の根拠や、看護による結果を明確に表現できるように、今後も成長に努めていきたいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 有料老人ホームで3月まで働いていました。今は、間接的にいくつかのホームを管理する立場となり、様々な施設の看護師がいることを実感しています。会社のブランドメッセージは、「その方らしさに深く寄り添う」です。生活を支える看護は何なのか？川崎先生の施設のようなその方の現在だけでなく 過去 生き方を知り、その方らしい生き方を知り、ご本人のニーズを互いに知っていることで、手をたさない 高度な看護実践ができるのではないかと思います。それができるためには、ご本人の力 思いとケアする側のバランスの在り方が重要だと思っています。ケアが見えない 評価されないことに対して、黙っていないで主張していくことが今 働いている私達がしていかなければならぬことであることを実感しました。本日は 貴重な講演をありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ● ケアを考えると意味で、とても有意義な時間でした。私は、急性期病院の新型コロナ病棟に勤めています。医療モデルに沿った患者への関わりが、「医療者が困らなかつたこと」として成功と捉える傾向をみます。逆に認知症や、せん妄などで、医療モデルでの看護が実践できなかったことを嘆きとして語る看護師もいますが、そういった時が、生活者としての患者の自律や自尊心を大切にすることの気づける良い機会なのだと改めて思いました。 これまででもそういった時には「無理して今はやらなくてもいいのでは？」「いつもはどのように暮らしていたのかしら？」など問いかけていくことから始めていかなければと思います。医療でのケアが「先回りのケア」とありましたが、いわゆる病院での生活モデルを取り入れていくには、患者の意思を先頭に自分たちが「追いかける」ことを根付かせる必要があると感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 私は「人に備わっている自然な死のプロセス」を看取るケアに、看取る人と看取られる人の納得に向かう相互作用があり、Discomfortを軽減する最期の生活援助に看護の重要な役割を見いだし探求しています。本日の深い議論から多くの示唆が得られました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 急性期病院では治療や検査が優先され、本人の意思はさておきの日常生活援助が行われている現状があると思います。高齢者のペースとは合わない療養スケジュールの中で、当事者主体のケアの実践の難しさを感じています。また、看護師の中にもそれを仕方のないこととする価値観とこのままではいけないとする価値観があり、それらをすり合わせてその人を中心におくケアとは何かと常に考えております。 本日聞かせて頂いたような生活の場で行われているケアの実践を、そのまま現在の急性期医療の場で行うことは容易ではないと思います。しかし、「医療の場」であるからという理由で大切にされていない、価値をおかれていない「ケア」をこのままにするのではなく、言語化し、意味づけ、現場の仲間とともによりよりケアを追求していくことは必要なことであると改めて感じました。その具体的な実践として、言語化すること、話し合うことの大切さにも改めて気づきました。 貴重な学びをいただき、ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 未来塾の塾生になる手続きが、なかなかできず、今度こそいつも思っていて、今日になってしまいました。今日の勉強会も、とても楽しかったです。やっぱり。 私は、病院での看護師の経験より、訪問看護師歴のほうが長いですが、看護の2大業務の「療養上の世話」と「診療の補助」の考え方、2大業務という風に勉強したので、そうゆう区別をして考えていました。しかし、訪問看護実践の中では別々ではありません。むしろ療養上の世話の中に時々診療の補助が入ってくる感じでした。つまり、「療養上の世話」の中に含まれる感じ。これが介護保険が始まって、介護職ができない「医行為」という差別化や医師のタスクシフトなるいろいろな社会のルールを保助看法や医療法、介護保険法などの法律から政策？という名の方法で「看護」が範囲づけられてきてしまっているのではないかと自身の看護師歴を振り返り感じています。看護実践者としては、療養上の世話だけで、看護業務は充分であると思います。病気や障がいの理解、治療の手伝いも療養上の世話に含まれるんじゃないんでしょうか。そういうダメですかね。患者を看護するわけですから。
<ul style="list-style-type: none"> ● とても学びになりました。あらためて看護にとって『ケアとは』ということを考えさせられました。現場で日々行われているケア(見えにくい良いケア)をどのように発信していくのか、看護の力が試される時なのではないかと先生方のお話を聞きながら思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 大変貴重な講演をありがとうございました。 「そのケアは誰の為か」という言葉にハッとしました。

<p>日常の業務をこなす日々に、この言葉は心の底に沈んでしまっていた様に思いました。同じ職場の看護師の中でも、『診療の補助』に価値を感じている者もいれば、『療養上の世話』にも同様に価値を感じている者もいて、看護観、価値観の違う中で、同様にケアする事の難しさも感じます。今回先生方の熱いお話を聴けて、自分が看護師であるなかで大切にしたい事を再認識できたと思えました。ありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ケアは綿密な観察や、繊細な技術が必要で、実施者の知識や感性が反映される難しくもやりがいのある業務と考えています。しかし病院はケア(療養上の世話)より診療の補助を重視する傾向が強いと感じます。私は現在医療療養病棟に勤務しており、診療の補助より、ケアの比重が大きい部署にいますが、施設形態が病院というだけで、診療の補助を重要視するような風潮を感じるがあります。社会がケアを安易に捉えていることで、タスクシフトにより、看護業務でなくなる危機もあるのかなと感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 各先生の貴重なご意見大変参考になりました。今後の職務に活かします。
<ul style="list-style-type: none"> ● ケアについて改めて考える機会になりました。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 次のステップ 続編をぜひ！とくに急性期の医療現場でのケアについてを。
<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なことを考えるきっかけをいただきました。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 各先生のお話、討論会の内容、とても勉強になりました。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護学生さんのご質問や考え方が興味深く、とても頼もしく感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な職種、意見を聞くことができてもおもしろかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ● ケアについて、多くの方の考え方を聞くことができる機会になりました。ありがとうございました。

Q13 今後の勉強会に関して、ご要望などございますか

<p><勉強会企画について></p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 南裕子先生の看護理論について
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護師のコミュニケーション教育のあり方について勉強会で取り上げていただけると嬉しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ● 養成大学一元化
<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍での在宅や施設での高齢者の暮らしをサポートしている内容を知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ● 病院と施設 地域との連携の在り方について現状を知りたい
<ul style="list-style-type: none"> ● 死亡前1ヶ月の高齢者の看取りのケア
<ul style="list-style-type: none"> ● 看護職と研究活動について、先生方の経験をふまえて知りたいです。
<p><運営について></p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今回のように、テーマが絞られていて、議論の時間を多く聞ける勉強会がいいなと思いました。それから議論のときは、もし可能であれば、参加者みなさんのお顔が見れると、私と同じ気持ちの人もあるとか、双方に反応がみれたりして、もう少し、勉強会の雰囲気盛り上がるんじゃないかと思いました。100人近くの人数的なので、指名される司会者は大変だと思いますが、議論のときだけでもそんな風にしていただけたら、臨場感があるように思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ● ZOOMを使っているのだからコミュニケーションツールとして生かしていけると盛り上がるのかと思いました。